

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000084		
法人名	医療法人 金子病院		
事業所名	グループホーム 合歓の木(Aユニット)		
所在地	福岡県柳川市久々原44番地2		
自己評価作成日	平成24年 3月 3日	評価結果確定日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>リビングは、天井高く、開放感があり、天窓から光が差し込み、明るく居心地の良い空間となっている。</p> <p>母体の病院が、隣接しており、ご利用者の急変時等に、迅速に対応できる体制を整えている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所1年目のグループホーム合歓の木は、母体医療法人やデイケアセンター等と連携しながら、高齢者が住み慣れた地域で暮らすことを支援している。「ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で、能力に応じたその人らしい暮らし作りをお手伝いします」と理念を掲げ、介護度の重い入居者の支援に取り組んでいる。自治会に加入していないが、母体法人が築いた地域とのつながりから、近隣から野菜を戴いたり、地域公民館の運動会の見学、中学生の職場体験の受け入れや保育園児との交流など、地域との付き合いが始まっている。2ヶ月毎の運営推進会議は地域代表者、入居者や家族代表等が参加し、ホームでの暮らしをDVDやスライドショーで報告している。外出先の情報提供や投薬管理について質問、食事に関する希望が出されるなど、参加者の意見を活用した運営が期待される事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **Aユニット／グループホーム 合歓の木**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールとスタッフコーナーに提示しており、いつでも閲覧できます。	開設時に作成した理念の「ゆったりとした、家庭的な雰囲気の中で、能力に応じた、その人らしい暮らしづくりをお手伝いします」を訪問者や職員の目につくように、玄関ホールやスタッフルームに掲示している。	日々入居者に提供する介護の中で、職員が理念を具現化できるように、申し送り時や話し合いの中で理念の意識づけをされてはいかげんかだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域とのつながりは少ないが、運動会の見学や地域の保育園児の訪問（年に数回実施）がある。	開設から日が浅く、自治会には加入していないが、母体法人が築いた地域とのつながりがあり、近隣から野菜を戴いたり、地域公民館の運動会の見学、中学生の職場体験の受け入や七夕かざりを持参した保育園児と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、質問を受けたり、認知症の方の行動等について説明し、何かあった場合には、協力して頂けるようお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居状況や入居者の生活状況、行事等についての報告を行い、ご家族、久々原地区代表の方々、行政機関より助言や指導を頂いている。	委嘱状と運営要項を整備し、地域の区長、公民館長、老人会婦人部長、民生委員、高齢福祉係長、入居者・家族代表の参加で2ヶ月毎に会議を開催している。会議ではホームでの暮らしをDVDやスライドショーで見せていただき、現況を報告している。外出先の情報提供や投薬管理について質問があり、薬の管理について具体的に説明している。	運営推進会議の更なる充実のために、運営要項に守秘義務や個人情報の取り扱いの記載の検討をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等を活用して、報告して協力関係を申し出ている。	地域包括支援センターや高齢福祉課と、居室の空き情報や入居待ちの状況等の情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の身体抑制廃止委員会の身体拘束11項目の具体例で研修している。スタッフルームから見守りをしたり、玄関にセンサーを設置している。外出傾向のある場合は見守りや声かけで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を集め、いつでも閲覧できるようファイルに綴じている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する資料をパソコン等で収集し、説明できるように準備している。	入居契約時に本人や家族に説明をお願いします。また、制度等に関する研修会の開催も期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、説明を行っており、ご家族から同意を得るようにしている。(可能な場合は、入居前に説明を行うこともある)		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的な相談窓口を伝えている。 面会時に、話を伺う機会を作るようにしている。	家族会や意見箱の設置は無いが、運営推進会議に入居者や家族代表2名の参加があり、会議の中で「もっと美味しい食事を提供してほしい」等の希望が出されている。利用料の支払いに全家族が来訪されるので、意見や要望を伺うようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、申し送り簿に何か意見等がないか確認している。 月2回、法人の全体朝礼があり、理事長からの話がある。	申し送り時や介護に関わる中で、職員から意見や提案を聞くように配慮しているが、定例職員会議が実施されていない。	より円滑な運営をすすめるために、定期的な職員会議の開催を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から定期的にまた必要の都度、報告を受け、事業所の現況を把握し、その問題点を明らかにして、迅速に対処している。従業員確保が困難であり、その対策に常に留意している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢は、幅広く、20歳代から50歳代までの方が働いている。お互い協力し合い、よい関係を気づいている。	募集・採用にあたっては、年齢・性別・資格・経験の有無は問わない。雇用契約書を取り交わし、服務規程・就業規則を整備している。職員の休憩場所が整備され、交代で昼休み1時間を確保している。法人内研修の参加を呼び掛けているが、職員の離職もあり、有休や外部研修受講は難しい。	要介護度の高い入居者も多く、また認知症の特性を理解したケアを提供するために、職員の段階に応じた研修計画の作成や研修実施を期待します。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内研修や外部研修の紹介を行って、その参加を促している。 参加していない職員へは、資料をファイルし、一定の場所に置いており、いつでも閲覧できるようにしている。	法人内で実施される人権研修に参加している。 家族から職員の言葉遣いについて苦情が寄せられ、管理者が対応しているが、接遇等の研修には至っていない。	入居者に対する声かけやケア時の接遇などを学ぶためにも、高齢者虐待防止マニュアルの作成や研修をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低年2回、開催される法人内研修への参加を促し、外部研修の案内がある場合は、スタッフコーナーに提示している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護サービス連絡協議会の研修会に参加したり、必要時、地区内の事業所へ電話連絡したり、訪問したりしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や入居前の利用施設や病院等の担当者より、情報を収集している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居申し込みに見えられた時から、困っていること等を、お伺いしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、他の介護サービス機関の説明を行い、ご本人・ご家族の要望に沿えるよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは手伝っている。 (洗濯物干し・たたみ・掃除等)		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、状況報告を行っている。 面会場所は、自室やリビング等おもしろい場所で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美・理容室からの訪問や近所の方の面会もあっている。 必要に応じ、家族の支援にて外出される方もいる。	入居前の近隣の方の訪問があったり、職員に馴染みの店での買い物依頼する入居者もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しい方々を同じテーブルにする。 関わりが少ないようなときは、職員が間に入り、橋渡しをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があったり、訪問されたりした際に、近況をお尋ねし、相談等があった場合には、お伺いし対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者・ご家族の意向を聞き、できる限り、希望に添えるように努めている。	本人や家族から、これまでの暮らしぶりや意向をお聞きしたり、日々の関りの中で入居者の言葉や表情から、思いの把握に努めている。フェスシート・アセスメントシート等に把握した情報の記載がない。	把握した情報の整備や共有で、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居前に、ご利用者やご家族に伺うとともに、入居前に利用されていた事業所等に情報を提供して頂いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕、その日の状況を申し送りしている。 個人記録は、職員がいつでも記入し、目を通せるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族や職員の家kんを聞き、ケアプランを作成している。	介護計画作成担当者が、アセスメントや本人、家族との話し合いに基づき介護計画を作成し、本人・家族の了承を得ている。職員会議やカンファレス等を定例化していないので、介護計画やモニタリング結果が共有しづらい。	各入居者の暮らし方や生活リズムを反映した具体的な介護計画を作成するために、全職員による話し合いを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、いつでもだれでも記入できるようにしている。気づいたことは、記録してもらうようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人が他の介護サービスを運営しているため、様々な状況によって、対応できる環境にある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長や民生委員等に、地域行事等を教えていただき、できる限り地域との関わりが持つことができるように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の希望を聞き、かかりつけの医師に受診できるようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は家族同行が基本であるが、家族が同行できない場合は職員が同行している。歯科の訪問診療を受診される方もいる。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の有資格者であり、近隣に病院があるため、相談しながら医療夜間顔が受けられ量に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、看護師が医療機関との連絡を取るようになっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、段階的に家族との話し合いを持ち、主治医等と連携し、対応の方針を決定している。	重度化対応及び終末期ケア対応指針を作成し、意思確認書を整備している。母体医療法人と連携していることが本人や家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、緊急時の対応ができるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、年2回の防火訓練を行っている。	災害対策マニュアルを整備し、スプリンクラーや火災通報装置を設置している。緊急連絡網を作成し、職員は地域の避難先を把握している。年2回の防災訓練は消防署や地元消防団と連携し、避難訓練を実施している。職員は、地元消防団主催の訓練にも参加している。ホームの備蓄について検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、対応している。 入浴や排せつ時の対応は、プライバシーの確保に配慮している。	職員は入居者一人ひとりに合った呼称で声かけしている。本人の意向を尊重し穏やかで、目線を合わせて支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを聞き出せるよう努め、自由に過ごしてもらっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を聞き、希望に沿うように支援している。(食事時間をずらすなど)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに気を使うご利用者もいらっしゃるので、希望があれば支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みを聞き、メニューを決めることもある。できる方には、声掛けし、一緒に片付け等行ってもら場合もある。	食材は購入するが、運営者の自宅や近隣の方から野菜の差し入れが届くこともある。豆のサヤを取ったり、調理の下準備の手伝う入居者もいる。食事は見守りしながら食べこぼし等をさりげなく支援している。全介助の入居者が多く、職員は入居者の食事支援に専念している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りがないよう、職員で栄養バランス・水分量などを考え支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、その方の状況に応じて介助し、清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、日中はできる限り、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄が自立している入居者は、見守りやさりげなく対応している。入居後に排泄が改善されたり、トイレ誘導で日中は布パンツの入居者もいる。介護衣で入居された入居者は、適切なトイレ誘導でリハビリパンツ等を使用している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は、食事以外にも摂取できるよう準備している。食事に乳製品や食物繊維を多く含むものを使用する等、配慮している。便秘がひどい場合には、主治医に相談し、内服処方して頂いている方もいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回は、必ず入浴できるようにしている。希望があれば、毎日でも入浴ができるようにしている。	三方から介助できる浴槽が設置されている。浴室前に設置されたトイレを入浴前に利用したり、シャワー浴で失禁に対応したりしている。A・Bユニットの入浴日を交互にしているため、入浴したい時に入浴が可能である。拒否のある方には、前日の声掛けや職員の交代で、不安や負担感に配慮しながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく体を動かすようにして、夜間、睡眠がとれるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬防止のため、毎回職員が服薬確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔遊び(お手玉等)を若い職員に教えられる方や新聞たたみ等の軽作業を行われる方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はなかなかできていないので、ウッドデッキに出て、時折外気浴を行っている。家族の協力があり、外出されている方もいる。	車椅子の利用の入居者が大半で、外出の機会は少ないが、広い玄関前やウッドデッキを活用して日向ぼっこ等楽しんでいる。帰宅願望のある方には、職員がついて散歩をしている。併設のデイケアの車でさげもん祭りの見学に出かける予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や持ち物に、被害妄想のある方があり、難しい場合が多く、金銭の預かりはない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方には、施設の電話で電話を掛ける支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節ごとに飾りつけをし、貼り絵や塗り絵など工夫している。	玄関の一角には畳コーナーが設けられ、壁には季節の飾り絵やさげもんが飾られている。居室前の広い廊下は車椅子の移動が容易で、木製の手摺が設置されている。吹き抜けの天井から自然光が射し込み、東西に広い全開の窓でリビングは明るい。広いフロアに食卓と椅子が配置され、窓側に左右対称に大型テレビと座り心地の良いソファが一對づつ配置されている。入居者は気に入りの場所で寛いだり、昼寝をしている。横になったり、洗濯物がたためるような移動式の畳のスペースがある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにいらっしゃるときは、ソファーやテーブル等、おもしろい場所でも過ごされる。ウッドデッキがあり天気の良い日は、外気浴もできる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお気に入りの写真や絵等を飾ったりされている。なじみのものや使い慣れたものは、持ち込んで良いことを家族に伝えている。	居室の窓から外の景色が広がり、引き戸には一部透明ガラス組み入れ、入口のネームプレートに夫々目印の飾りがある。空気清浄機で乾燥や臭気に配慮されている。ベット・寝具・クローゼットは備え付けであるが、毛布や使い慣れた椅子やテレビ、家族用の椅子が持ち込まれている。ベットは入居者の状況に応じて高さが調整されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体バリアフリーのため、移動等はスムーズにできる。手摺り等も各所に設置している。		